

東京外国語大学基金

Foundation of Tokyo University of Foreign Studies

活動報告

Activity Report

2023



活動報告

Activity Report

2023

ご挨拶 林学長／成瀬理事	03
2023年度 収支報告	04
2023年度 活動報告	05
建学150周年基金 事業報告	11
建学150周年基金 収支報告	14
ご寄附いただいた方々	16
2024年度 支援事業計画	18
東京外国語大学基金	19





東京外国語大学長
林 佳世子……はしかよこ

2023年は、本学にとって「建学150周年」の年でした。23年に向けて展開してきた「建学150周年基金」も最終年となり、多くの皆さんから多額のご寄附をいただき、本当にありがとうございました。お陰さまで、1年間を通じ多彩な活動を展開するとともに、これからの礎となる基金を形成することができました。

「建学150周年」に関する活動は、本パンフレットの後半にまとめられておりますが、11月の式典、『東京外国語大学150年のあゆみ』の刊行、屋外運動場の人工芝敷設を中心に、多くの催しが開催されました。この一環で、読売新聞社との共催による建学150周年記念連続市民講座が行われ、遠方からも多くの皆さんに足を運んでいただきました。

そして、今年、「東京外国語大学基金」として、新たな出発の年となります。基金の種類は、「一般基金（大学の活動を支援する）【所得控除】」、「修学支援事業基金（学生の修学を支援する）【所得控除または税額控除】」、「研究等支援事業基金（学生等の研究を支援する）【所得控除または税額控除】」、「特定基金（特定のプロジェクトを支援する）【所得控除】」と整理されました。寄附に対する税制は優遇措置拡充に向け毎年のように変化があるため、わかりにくく、申し訳ありませんが、何なりとご質問をお寄せください。

引き続き、本学の活動を見守り、ご支援賜れば幸いです。どうぞよろしく願いいたします。



東京外国語大学理事
(社会連携、基金、広報等担当)
成瀬 智……なるせ さとる

2023年に、建学150周年を迎え、2014年から10年間にわたり活動してきた「建学150周年基金」の募金活動は12月末をもって終了し、お陰さまで募金額は約5億4千万円となりました。

これまで多くのみなさま方からご支援をいただき深く感謝申し上げます。

本基金による事業につきましては、寄附していただいたみなさまのご意向に沿って活用していくとともに、本基金により支援していただいた事業等はできる限り速やかにわかりやすい報告に努めていきたいと思っております。

2024年1月からは、常設の「東京外国語大学基金」として新たなスタートを切っており、さらに募金活動を継続していきます。

本学が、世界を知り、世界と日本を結ぶ中核拠点大学として更なる発展を図っていくため、引き続きみなさまのご支援をお願いいたします。

2023 収支報告

2023年度 収支決算

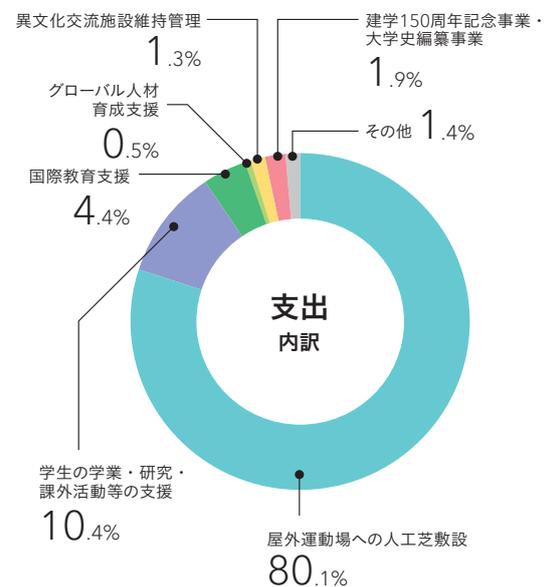
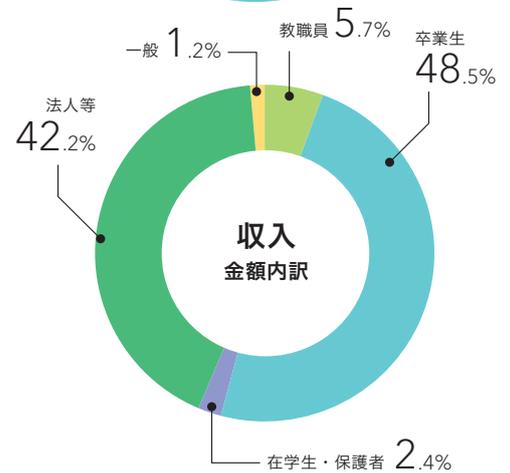
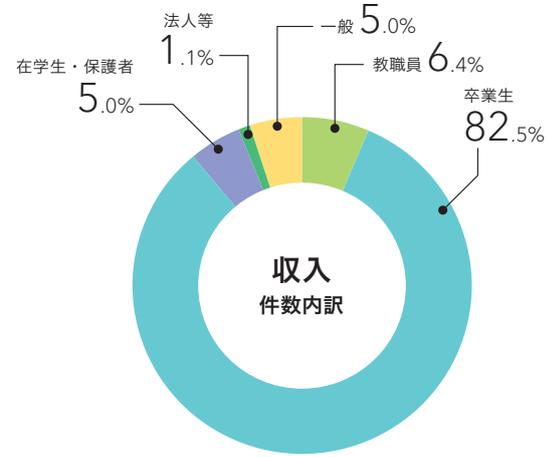
2023年度 期首残高	収入額	運用利息	支出額	2024年度 繰越 (円)
593,183,030	69,449,963	92,126	179,414,882	483,310,237

収入

区分	件数	金額 (円)
教職員	35	3,999,549
卒業生	449	33,657,661
在学生・保護者	27	1,674,236
法人等	6	29,317,514
一般	27	801,003
合計	544	69,449,963

支出

区分 主な用途	金額 (円)
01 屋外運動場への人工芝敷設 屋外運動場への人工芝敷設	143,781,000
02 学生の学業・研究・ 課外活動等の支援 学生の学業・生活支援、研究活動支援、課外 活動・進路指導支援 等	18,716,339
03 国際教育支援 派遣留学支援、留学生受け入れ支援、国際企 画教育支援 等	7,839,552
04 グローバル人材育成支援 学生の外国語運用能力の育成支援	974,900
05 異文化交流施設維持管理 外語祭の語劇、イベント等で使用するアゴラ・ グローバル プロメテウス・ホールの維持管理	2,261,380
06 建学150周年記念事業・ 大学史編纂事業 建学150周年記念事業・大学史編纂事業支援	3,444,993
07 その他 本学キャンパス内への植樹、基金の運営費 等	2,396,718
合計	179,414,882



活動報告

2023年度における基金の具体的な使途(活動)について、次のとおり報告いたします。

01

屋外運動場への人工芝敷設

- 基金により屋外運動場に人工芝を敷設しました。

➡ 詳しくはp.12へ



02

学生の学業・研究・課外活動等の支援

- 本学多文化共生イノベーション研究育成フェローシップ (MIRAI) と北海道大学DX博士人材フェローシップ・アンビシャス博士人材フェローシップとの共催にて、「博士学生のための異分野交流会」(合宿形式)を実施しました。 ➡ 詳しくはp.06へ



北海道大学と共催で「博士学生のための異分野交流会」を開催



「博士学生のための異分野交流会」のワークショップの様子

- オープンキャンパスの実施支援 (専攻語PR動画の作成や協力してくれた学生への謝金支出等) に充てました。
- 学生の課外活動支援のため、業務用冷蔵庫 (戸田合宿研修所) を購入しました。
- ベトナム語専攻の学生に対する語学研修費支援に使用しました。
- ペルシア語学科 (現ペルシア語専攻) で教鞭を執られた本学名誉教授から寄附されたペルシア語を中心とした図書の整理・管理費用に充てました。
- キャリア相談 (キャリアカウンセリング) や学生相談、外語祭や課外活動支援に係る経費に使用しました。



2023年度の第101回外語祭では26語劇を公演。公演後、一定期間YouTubeでも配信しました。写真は、ヒンディー語劇「インドのかぐや姫」

Interview

MIRAI
について
教えてください

基金の支援が研究と社会をつなぐ

分野の壁を超えた交流の実現

人文科学の知見が、いかに社会とつながり得るのが問われる中、本学は「多文化共生イノベーション研究育成フェローシップ (MIRAI)」^{*}を立ち上げました。本学基金の支援により、MIRAIでは分野を超えた本学と他大学の大学院生の研究交流を実現しています。MIRAIプログラムのコーディネーターの青井隼人特任助教にお話を伺います。

MIRAIとはどのような事業でしょうか？

MIRAIは、博士号を持った若手研究者の活躍の場を広げることをミッションとして立ち上げられました。研究活動をより広い社会の文脈の中に位置付け、より広い範囲のステークホルダーとつなげていくための支援プログラムをフェローシップ生に提供しています。論文執筆やプレゼンテーションなど、研究スキル向上の機会の提供に加えて、自分たちの研究や、研究者としての自分たちが、社会とどんな接点を持てるか・持ちたいかを考えるような機会も提供しています。専門分野における目的・意義・独創性だけを突き詰めるのではなく、分野を超えたつながり、そして非アカデミアとのつながりを視野に入れて、自身の研究の価値を考えてもらっています。

本学基金の支援を受けて実施された、北海道大学との異分野交流はどのようなものでしたか？

2022年9月、北海道大学様よりお声がけいただき、2大学合同の交流合宿が始まりました。大学や分野の壁を超えて交流する機会を博士学生に提供することを目的として企画されたもので、本学内にはいないタイプの人と知り合うことができると、学生からも好評です。

基金のお力を借りて実施した2023年度は、本学が幹事校となり、八王子の大学セミナーハウスで開催しました。大学・分野を混ぜた少人数グループで共同プロジェクトの企画を作るワークショップなどを行い、大いに盛り上がりました。合宿では、夜遅くまで研究やキャリアについて語り合う姿が見られました。宿泊部屋で同室になった者同士で夜通し議論したという話も聞いています。こうした濃いコミュニケーションは、合宿形式だったからこそ生まれた交流であり、1日で終わってしまうイベントではほとんど不可能と言えるでしょう。今年度は、筑波大学様も加え、3大学に拡大することが決まっています。

今後のMIRAIについて、寄附者のみなさまにお伝えしたいことは？

ともすれば専門分野に閉じこもりがちな博士学生らに異分野交流の場を与えることができたのは、基金のご支援の賜物です。ご支援くださいましたみなさまに心より御礼申し上げます。

本学多文化共生イノベーション研究育成フェローシップ (MIRAI) 及び、学際研究共創センター (TReND) では、今後も「大学院生が自身の研究と社会のつながりを感じる」「異分野と交流し新たな知見に触れる」ことを目的としたイベントを実施してまいります。軽視されがちな人文研究ですが、イノベーションは、人文の知もあってこそ生まれるものです。今後の日本の人文研究の発展のためにも、引き続きご支援を賜りますよう、伏してお願い申し上げます。



北海道大学との合同合宿では、分野を横断したポスターセッションを実施。他分野の研究者にも伝わるよう、それぞれデザインに工夫を凝らした



有志の学生によって企画されたワークショップの様子。即席で組まれたグループで、メンバー全員の専門や強みを活かした事業のアイデアについて話し合われた



インタビューに応える青井特任助教。MIRAIではゼミ運用、研究力強化イベントの実施、MIRAI生のメンターなども務める



多文化共生イノベーション
研究育成フェローシップ
<MIRAI>

^{*}MIRAIは、文部科学省の「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」の支援を受けています。

03 国際教育支援

- 国際機関へのインターンシップ、国連スタディ・ツアー等への学生の派遣支援、留学生の受け入れ等に関する経費に充てました。



国連内のガイド付きツアー



TUFS
国連ニューヨーク・スタディツアー
報告

- 学校推薦海外インターンシップの派遣学生3名に奨学金助成を行いました。
- 博士前期課程に在籍する3名の大学院生に奨学金を支給し、修士研究に必要なフィールドリサーチ（ガーナ、インド、メキシコ）の実施を支援しました。

- 博士後期課程共同サステナビリティ研究専攻に在籍する大学院生の国際学会参加に係る渡航費に充てました。

▶ 詳しくはp.08へ

- ポルトガル語劇のブラジル人コミュニティ出張公演（場所：群馬県大泉町文化むら大ホール）に係る経費を支援しました。



ポルトガル語を専攻言語として学ぶ2年次の学生による、熱のこもった演技



TUFS
ブラジル人コミュニティでポルトガル語劇を公演

- アジア経済研究所によるアイデアス（IDEAS）研修プログラムへの本学学生の派遣に関して、研修費の一部を基金から支出しました。

Report

基金の支援でより有意義な学びを

発展途上国の問題への理解を深める、数多くの貴重な経験ができました

本学基金の支援によって学びを深めることができた学生のひとり、胡さん。
発展途上国の諸問題の研究を志し、専門の研究機関が行う半年間の研修プログラムに参加しました。

コ セツヒン
胡雪斌さん

東京外国語大学大学院 総合国際学研究科 博士前期課程 1年

学部時代から貧困問題及び飢餓問題に深い関心を抱き、関連する文献や参考書で自主的に学び続けてきました。大学4年生の時期に、まさにこの分野の知識を深めようとしていた際、アジア経済研究所開発スクール（IDEAS）の学内説明会に参加する機会を得ました。その後、本学の基金による支援を受けて、IDEASプログラムに参加しました。

IDEASのプログラムでは、貿易投資、貧困削減、教育、環境、人権、開発援助など、発展途上国の多様な問題に関連する最新の研究を行っている専門家たちから指導を受けることができました。半年弱の研修期間中に、「国際貿易と貿易政策」、「世界貿易システムにおける発展途上国」や「教育と開発」など、国際開発に関連する多様なコースを履修し、またアジア及びアフリカ諸国で国際開発に携わる実務家たちと共に授業を受けることで、途上国の状況に対する理解を深める貴重な経験を得ました。

これらの学びと、学術研究及び執筆に関する指導教員からの指導により、インドに関する研究を完成させることができました。特に、インドの貧困と飢餓軽減政策に関する多角的な分析を通じて、有効な貧困削減政策についての論文をまとめることができました。



IDEASのプログラムに参加した方々と

国際フォーラムへの参加を支援

日本での研究成果を母国の人々と分かち合うことが喜びです

日本でサステナビリティ研究を行い、博士号を取得したセネガル出身のファファさん。本学の基金による助成を受け実現した在学中の2023年5月に母国で行われた国際フォーラムへの参加は、これまで取り組んできた研究を前進させる、またとない機会となりました。

セネ・ファファさん …… Sene Fafa

Technical advisor to the Minister of Urban Planning, Local Communities and Territorial Planning, Republic of Senegal

セネガル共和国 都市計画、地域社会・国土計画担当大臣技術参与

Ph.D. holder from the Joint Doctoral Program for Sustainability Research, Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies
東京外国語大学大学院 総合国際学研究所 博士後期課程 共同サステナビリティ研究専攻 博士号取得



国際フォーラムのブース内で、展示ポスターの説明を行うファファさん（写真左）

Report on the Global Social and Solidarity Economy Forum in Dakar - Senegal

From May 1st to 6th, 2023 was held in Dakar - Senegal the sixth edition of the Global Social and Solidarity Economy Forum under the theme: SOCIAL AND SOLIDARITY ECONOMY & TERRITORIES: Transitioning from "informal economies" to collective and sustainable economies for our territories. About 80 conferences were held during the entire event in two different formats: Workshops (individual initiatives) and self-organized sessions.

As a Senegalese national pursuing doctoral studies at Tokyo University of Foreign Studies (TUFS) in Japan, my proposal for a project on sustainable agriculture in a Senegalese commune was selected by the organizers of the forum. It is from that point that I was selected as a speaker on the workshop "Governance of local food systems" of the theme 3: Collective and sustainable "green" economy for the territories, food self-sufficiency and its governance.

A delegation from our university (TUFS), led by my supervisor Chikako NAKAYAMA, therefore took part in the forum by presenting, beyond my individual presentation, a group session that explored a possible contribution of an analytical research on sustainability to the real improvement or development of people's quality of life in a neo-Polanyian approach. We also made participants at the forum notice that we had started a collaboration with women's cooperatives of Medina Sabakh in Kaolack region (Senegal) to deepen our solidarity with rural Senegalese communities. The opportunity was perfect because the purpose of GSEF appeared suitable for it. During our group session, we discussed how to empower people, women especially, and improve their quality of lives by implementing ideas of sustainable, endogenous economy, with living conditions restricted by severe nature (i.e., lack of water) and without recognition by any

levels of political measures. Given the topicality of the subject of my presentation, I had the privilege of being one of the 4 people, among the hundreds of participants, who benefited from a stand made available to me free of charge by the forum. This allowed us to meet a lot of people who stopped by our stand. We spoke with many young Senegalese and others from other African countries who were interested in our theme but also in Japan and its economic and technological development.

The forum ended in a closing ceremony chaired by the outgoing President of the Republic of Senegal. It was a unique experience in terms of meetings, exchanges and socio-cultural and economic impact on the participants. Participating to the GSEF forum in Dakar was possible thanks to funding from TUFS which almost fully covered my plane tickets, accommodation and internal travel. That is the reason why I would like to thank, from the bottom of my heart, the President of Tokyo University of Foreign Studies, all the staff, and above all, the donors to the Foundation of Tokyo University of Foreign Studies for allowing us to experience those strong sharing moments. Hoping that other students will be able to benefit from similar financial support to participate in such interesting forums in Africa.



Profile

セネガル共和国出身。最高学府シェイク・アンタ・ジョップ大学にて、学士号、修士号、上級教員養成ディプロマ(セネガルで最高位の教員資格)を取得。その後韓国政府の奨学金を得て延世大学で修士課程を修了。帰国後、セネガル地方自治省に赴任。「サステナビリティ」こそ自国に必要とされるキーワードだと感じ、東京外国語大学博士課程での研究を決意する。進学後、日本で暮らし、2024年3月に博士号を取得して帰国、現在に至る。



共同サステナビリティ研究専攻修士が
論文賞を受賞



大学院生インタビュー：博士後期課程 共同サステナビ
リティ研究専攻 セネガル出身 セネ・ファファさん



大学院生インタビュー：博士後期課程 共同サステナビ
リティ研究専攻 セネガル出身 セネ・ファファさん【英語版】



学部生へ、セネガルについてレクチャー（在学時）



中山智香子教授、研究室メンバーと（在学時）

ダカールにて開催「社会的連帯経済の国際フォーラム」への参加報告

2023年5月1日から6日にかけて、ダカール（セネガル）にて、第6回社会的連帯経済の国際フォーラム（GSEF）が「社会的連帯経済とテリトリー：〈インフォーマル〉経済からわれわれのテリトリーのための共同のかつ持続的な経済への移行」というテーマで開催されました。期間中、約80のカンファレンスが異なる2形式で実施されました。ワークショップ（個人参加の取り組み）と自主企画セッションです。

東京外国語大学（TUFS）の博士課程に在籍するセネガル人として、セネガルの農村コミュニティにおける持続可能な農業に関するプロジェクトを取り上げた私のプロポーザルが、フォーラムの主催者によって選ばれ、テーマ3「テリトリーのための共同のかつ持続可能な〈グリーン〉経済、食料自給とそのガバナンス」の中のワークショップ「ローカル・フードシステムのガバナンス」の発表者に選ばれたのです。

私の指導教授である中山智香子先生を団長とする本学代表団はフォーラムに参加し、私自身の発表に加え、ネオ・ポランニー的アプローチに基づき、人々の生活の質の向上と発展に真に貢献する分析的なサステナビリティ研究のグループセッションを行いました。私たちはまた、セネガルの農村コミュニティとの連帯を深めるために、カオラック地方のメディアナ・サバ村の女性協同組合との協働を開始したことを、フォーラムの参加者に周知しました。本プロジェクトがGSEFフォーラムの目的に適っているように思われたからですが、絶好のタイミングでの周

知となりました。グループセッションでは、厳しい自然環境（水不足など）に制限され、いかなる次元の政治的措置からも認知されない生活条件の中にあっても持続可能で内因的な経済のアイデアを実行することによって、人々、特に女性に力を与え、生活の質を向上させる方法について議論を行いました。私の発表テーマが話題性の高いものであったため、私は数百人の参加者から選ばれた4名のうちのひとりとして、フォーラムからブースが無料で提供されました。そのおかげで、私たちのブースに立ち寄ってくれた多くの人々と知り合い、私たちの発表テーマだけでなく、日本とその経済的・技術的發展にも興味を持ってくれたセネガル人や他のアフリカ諸国の若者たちと話すことができました。

フォーラムは、退任間近のセネガル大統領が議長を務めた閉会式で幕を閉じました。数々の出会い、交流、参加者への社会文化的・経済的な影響力があったという点でまたとない経験となりました。ダカールで開催された本GSEFフォーラムに参加できたのは、私の航空運賃、宿泊費、国内移動費をほとんど全額負担していただいた東京外国語大学からの助成金のおかげです。このような力強い「分かち合い」の瞬間を経験させてくれた東京外国語大学の学長と教職員、何より寄附者のみなさまに心から感謝申し上げます。また、他の学生たちが、アフリカで開催されるこのような興味深いフォーラムに参加するために、同じような経済的支援を受けられるようになることを願っています。

04 グローバル人材育成支援

- 外国語（英語）能力の育成のため、TOEIC-IP受験に係る経費を補助しました。

05 異文化交流施設維持管理

- 外語祭の語劇やイベント等で使用するアゴラ・グローバル プロメテウス・ホールの維持・管理をするための経費に充てました。



アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール

06 建学150周年記念事業・大学史編纂事業

- 建学150周年記念式典の実施経費や、大学史編纂に係る作業経費に使用しました。

➡ 詳しくはp.11へ

07 その他

- 台風により倒木した本学キャンパス内に、基金により新たに桜の樹を植栽しました。
- 寄附者（本学教員）のご意向に沿い、本学キャンパス内に白梅を植えました。
- 本学基金の運営費（基金活動報告書の発行、基金HPのリニューアル等）に充てました。



TUFS

基金により桜の樹を植栽



TUFS

基金により梅の樹を植栽

Interview



恩師の遺した紅梅の木に寄り添って

本学では、緑豊かなキャンパスの維持管理を目的に「植栽基金」を設置しています。今年、本学の齋藤弘子教授からのご寄附により、白梅の木を植栽しました。この白梅に託された思いを、齋藤先生に伺ってみました。

学内の生協食堂の裏には、私の恩師である故竹林滋先生が2001年に寄贈された紅梅があります。もう4メートルもの高さに伸びて、毎年とてもきれいな紅い花をたくさんつけます。でも1本だけでは寂しいだろうと思い、定年退職するときに私も梅の木を1本、傍らに植えさせてもらいたいと考えていました。それが、昨年植栽基金が始まったことを知り、定年前ですが参加することにしたのです。

竹林先生は2011年3月10日、東日本大震災の前日に急逝されました。13日朝のご葬儀のあと私は大学に寄って、キャンパスを歩いてみました。そうしたらこの梅の木があって、幹には竹林先生の御寄贈である旨の札が下がっていたのです。竹林先生が苗木を寄贈されたことは聞いていましたが、どこにどんな木を植えたのかは知りませんでした。植栽されてから10年経って初めて、私はこの梅の木を見ることになりました。しかも先生が亡くなられた3日後に。

それからは毎年、季節になると、そろそろ咲いているかなと見に行くようになりました。そして、この紅梅の隣に白梅を植えれば、めでたいいのではないかと考えるようになったのです。先生の紅梅の木の高さに追いつくにはあと20年かかるかもしれませんが、私の白梅は八重咲き種なので、小さいながら目立つと思います。早く、恩師に追いついて追い越せますように！（あくまでも、梅の木の話です。）



2024年2月に
植栽された白梅

齋藤先生

建学150周年基金 事業報告

本学は、2023年に建学150周年を迎えました。2014年から始まった「建学150周年基金」は、2023年までの10年間にわたる活動を終えました。

この間、寄附者の方々から多大なるご支援を賜り、建学150周年基金により、屋外運動場への人工芝の敷設、「建学150周年記念式典」の挙行などを実現することができました。ここでは、建学150周年基金による4つの事業をご報告いたします。

建学150周年記念式典を挙行

2023年10月28日（土）、本学の建学150周年を記念して、アゴラ・グローバル プロメテウス・ホールで記念式典を挙行了しました。

本学卒業生、名誉教授や本学退職者のほか、教育関係者や自治体関係者など約260人が出席しました。林佳世子学長からの式辞の後、大阪大学の西尾章治郎総長と東京外語会の寺田朗子理事長から祝辞をいただきました。また、世界30地域の協定校関係者の方からのビデオメッセージが披露されました。

その後の記念講演では、本学出身のジャーナリストによる対談企画が行われ、ウクライナインフォর্ম通信（ウクライナ）編集者の平野高志氏（2004年外国語学部ロシア語卒）とNHKニュースウオッチ9キャスターで記者主幹の田中正良氏（1992年外国語学部中国語卒）が登壇しました。中山俊秀副学長が司会を務め、平野氏はウクライナのキーウからオンラインで参加しました。

式典では、混成合唱団コール・ソレイユによる大学歌合唱、チアリーディング部RAMSや管弦楽団による合同演技も披露されました。



東京外国語大学
建学150周年記念式典を挙行



世界30地域の協定校関係の方からのビデオメッセージ



チアリーディング部RAMS

式典パンフレット



大学史編纂事業

「東京外国語大学150年のあゆみ」の刊行

東京外国語大学は、1857（安政4）年に幕府により開校された蕃書調所を淵源とし、1873（明治6）年の官立東京外国語学校の建学以来、150年にわたり言語教育を礎としながら、世界の諸地域の政治・経済・文化に精通した人材の育成を担ってきました。

外国語と外国事情の教育・研究を基礎とする本学の歴史は、日本を取り巻く国際情勢の変遷と深く結びついてきました。戦前には日露戦争に際して軍事通訳の養成に協力し、アジア進出を目指す商人・企業家に商用外国語を教授する速成科を設置し、戦後には日本の経済発展・国際社会との関係性の変化にあわせ、学科増設を進めてきました。

大学文書館では、建学150周年にあわせ、学内外に眠る本学関係資料の収集・整理、調査研究を行う大学史編纂事業を進め、『東京外国語大学150年のあゆみ』を刊行いたしました。本書では、日本の近現代史の激動と密接に結びつく本学の150年のあゆみを、諸資料とともに紹介しています。



東京外国語大学出版会
『東京外国語大学150年のあゆみ』



東京外国語大学 150年のあゆみ

東京外国語大学文書館 編
東京外国語大学出版会 刊
2023年11月4日発行
四六判・並製
総ページ数400頁
定価2,200円+税

屋外運動場への人工芝敷設

本学が北区西ヶ原から府中にキャンパスを移転してから、20年余りが経過し、体育の授業、課外活動等に使用している屋外運動場について、衛生面や安全面において、活動上の支障が懸念されておりました。

学生等に良好な運動環境を提供し、土煙の抑制や怪我の予防、雨天後の使用効率の向上のため、建学150周年記念事業の一環として、2022年より人工芝を敷設することを目的とした人工芝基金を設置しました。

人工芝基金等のご寄附のもとに、予定どおり、2023年度内に屋外運動場に人工芝を敷設いたしました。

運動種目によっては、人工芝でないと公式戦が実施できないものもあり、本番を想定した練習環境の実現は、本学にとって切実なものがありました。

また、人工芝の敷設を記念し、人工芝基金の募金活動に多大なご協力をいただいた運動部OBのみなさま、東京外語会理事長、学生後援会長らをお招きし、2024年4月3日（水）にオープニングセレモニーを挙行了いたしました。

みなさまのご理解と温かいご支援に感謝申し上げます。また、人工芝の保全・維持に費用がかかることもあり、引き続き、人工芝基金を開設しております。変わらぬご厚意・ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



グラウンド人工芝完成、
オープニングセレモニーを挙行



人工芝グラウンドのオープニングセレモニー



テープカット



セレモニーで行われた始球式



新しい人工芝グラウンドで部活を楽しむ
学生たち



雨の中でもプレーがしやすくなりました

コロナ禍対応、学生への支援

世界保健機関（WHO）が新型コロナウイルス感染症を「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」と宣言したのが2020年1月30日、そして、その終了が発表されたのが2023年5月5日のことでした。2020年度の春学期の全授業は、急遽、オンラインで実施することになるなど、同ウイルスの感染拡大は、本学にも多大な影響を及ぼしました。

コロナ禍によって、アルバイトができず、経済的に困窮する学生もみられた中、いただいたご寄附を財源として、返済を要しない奨学金の給付を実施しました。また、「食」の支援として、100円朝食・100円弁当、フードパントリーや生協食堂の食券配布を行いました。基金を活用したこれらの支援活動については、多くの学生からも感謝の声が寄せられました。

修学支援事業基金にご寄附いただいたみなさま、東京外語会や学生後援会等、本学の関連団体のみなさまに、あらためて感謝申し上げます。



TUFSフードパントリー



コロナ対策に係る学生支援事業として
生協食堂の食券を配布



2024年2月実施のフードパントリーでは、110名の学生に、バックご飯・麺類などの食料品、缶詰等の食料品を手渡しました

■ 建学150周年記念関連事業

建学150周年の記念にさまざまなイベントを開催いたしました。

学会・シンポジウム・講演会・講義・座談会など

2023.03.07	座談会「記憶の中の外語：西ヶ原 '70～'80」
2023.04.13	「イタマル・ヴィエイラ・ジュニオール氏講演会」『曲がった鋤』—ブラジル文学にもたらされた新風— A novidade de Torto arado na literatura brasileira
2023.06.10 -06.11	日本比較文学会2023年度第85回全国大会
2023.06.24	合評会『世界の中のラテンアメリカ政治』を読む
2023.10.06 -10.13	東京外国語大学国際メディア情報センター主催 シリア文化週間
2023.10.09 -11.10	第13回アジア・アフリカ研究・教育コンソーシアム (CAAS) 国際シンポジウム
2023.11.23	外語祭特別企画「戦争と外大生」
2023.12.03	芸能公演『バリ島の音楽と歌芝居にふれよう』
2023.12.07	講演会「森林住民から見たアマゾンの保全・利用・開発」
2023.12.13	公開講義「オックスフォード英語辞典に見る日本語由来の言葉」 Word of Japanese Origin in the Oxford English Dictionary
2024.01.24	一般公開講義「世界の英語における新たなイノベーション：言語変化の指標としての創作的表現」
2024.02.10	多文化共生シンポジウム「多文化共生をめぐる包摂と排除の理論 外国籍の子どもの就学義務化を求めて」
2024.02.10	社会連携シンポジウム 「多様性のある職場での円滑なコミュニケーション実現を目指して～グローバル企業の取り組みからの再考～」

東京外国語大学 建学150周年記念講演会

2023.06.13	講演者：プロ登山家 竹内洋岳氏
2023.12.04	講演者：フリーアナウンサー 富永美樹氏

連続市民講座「世界を学ぶ、世界を生きる」(全11回)

2023.04.15	第1回「世界を学ぶ、世界史を学ぶ」
2023.05.13	第2回「世界の言葉に触れてみよう！—『28言語で読む「星の王子さま」』
2023.06.03	第3回「犬から目線で楽しむチベット文学—『ハバ犬を育てる話』を中心に」
2023.06.17	第4回「イスラームのいま—写真に見るその多様な姿」
2023.09.02	第5回「ブラック・ライブズ・マターから学ぶ」
2023.10.14	第6回「職業としての通訳—通訳の世界」
2023.11.18	第7回「女性作家が書く女性芸術家の肖像—フランスとドイツ」
2023.12.09	第8回「江戸を支えたバイオマス・エネルギー—薪炭の流通と徴税システム」
2024.01.06	第9回「ウクライナの装飾文様—美術とナショナリズムの関係の今昔」
2024.02.17	第10回「地球の音楽—世界の姿を聴く旅へ」
2024.03.02	第11回「中東諸国で再生産される混乱—「テロとの戦い」とシリア内戦がもたらす負のスパイラル」

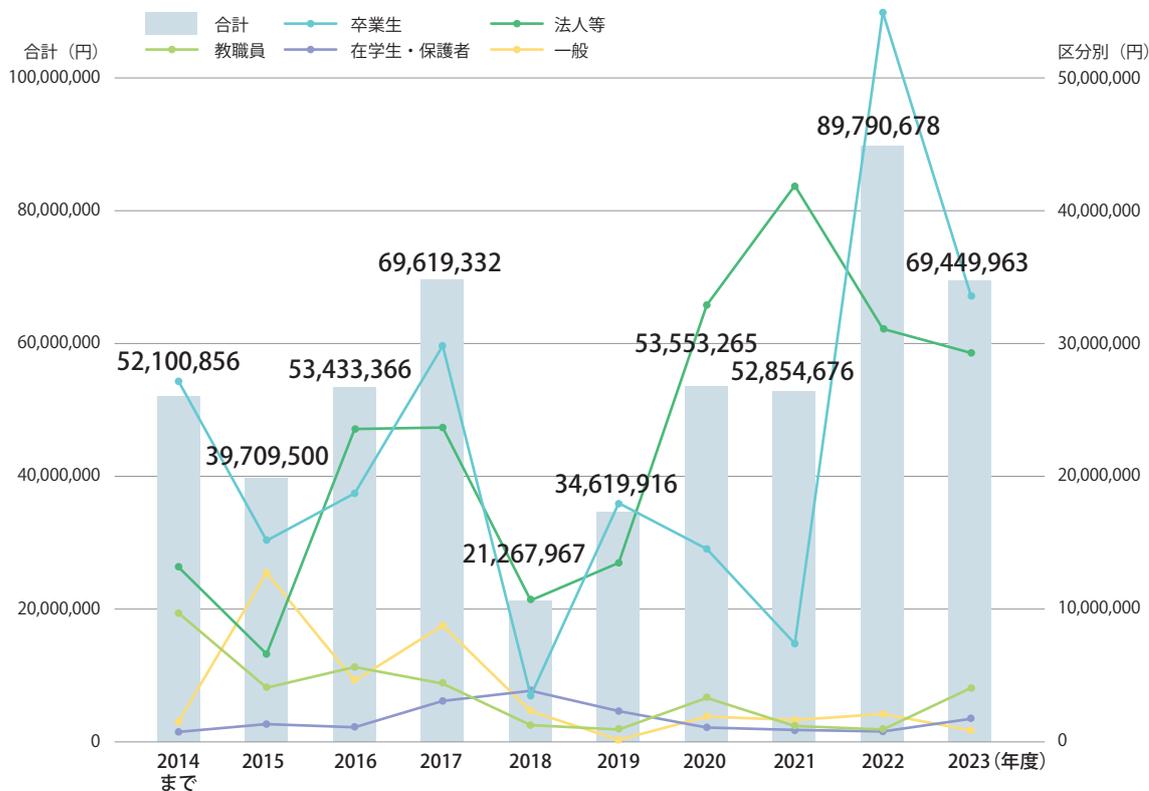
TUFS Cinema

2023.04.22	南アジア映画特集『ムンナ兄貴とガンディー』
2023.05.14	オセアニアドキュメンタリー映画上映会『チェエメニ号の冒険』
2023.06.25	火と農業の映画特集『地球は自分を誰だと思っているのか？(火になる)』
2023.07.01	ミャンマー映画上映会『にっぽんむすめ』
2023.07.22	ウズベキスタン民族誌映画上映会『神授の花：フェルガナの女性とイスラーム』
2023.07.23	香港映画上映会『ソロウェディング』
2023.09.03	イラン映画特集『命の葉』
2023.12.01	バスク映画特集『遊牧のチャラルバルタ〜バスク幻の伝統打楽器奏者オレカTXの旅〜』
2023.12.08	バスク映画特集『ヘルチョラリ—バスクの即興歌人』
2023.12.15	バスク映画特集『バスク・ダンス万華鏡』
2023.12.16	南アジア映画特集『神に誓って』
2023.12.17	バルカン半島映画特集『どこでもない、ここしかない』『いつか、どこかで』
2023.12.23	南アジア映画特集『土曜の午後に』
2024.2.18	イラン映画特集『ウォーデン 消えた死刑囚』



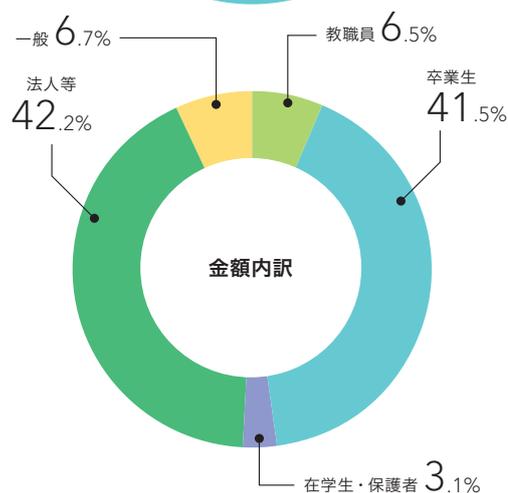
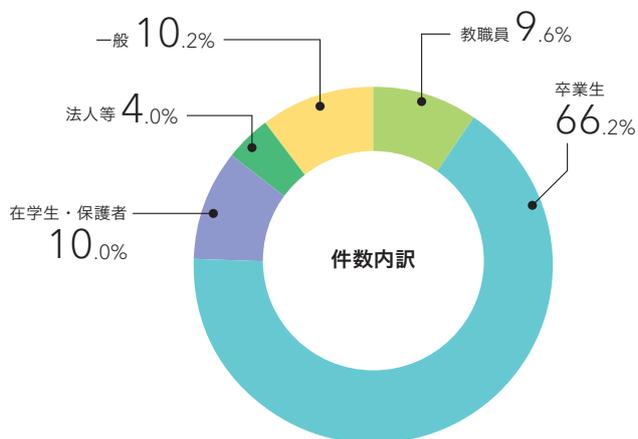
■ 募金状況

2023年度までの推移



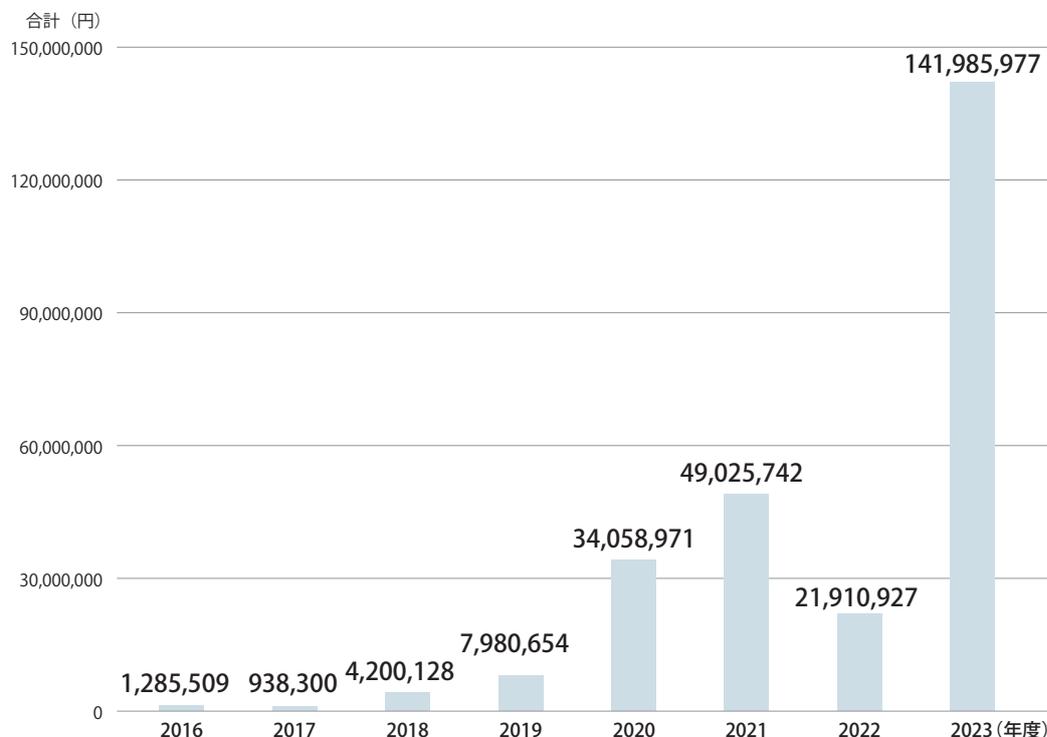
2023年度までの合計

区分	件数	金額 (円)
教職員	420	34,914,549
卒業生	2,894	222,797,461
在学生・保護者	435	16,307,230
法人等	174	226,351,962
一般	448	36,028,317
合計	4,371	536,399,519



■ 支出内訳

年度別支出内訳



事業別支出内訳

基金・事業	支出内容	金額 (円)
ベルシア語教育研究基金事業	人件費 (図書整理)、ベルシア関連イベント謝金、書籍購入、日本学術振興会外国人研究者招聘事業航空賃	5,778,127
多言語・多文化教育研究センター支援事業	コーディネーター人件費 (多言語・多文化教育研究センター)、感染対策広報用動画撮影 (学長メッセージ、感染対策動画)	1,307,649
大学史編纂事業	建学150周年史編纂：他大学の年史編纂の調査、関連資料の収集・整理	5,957,811
アフリカ教育研究支援基金事業	学部交換留学生の航空賃及び生活補助、クラウドファンディング手数料等	4,347,780
学生後援会寄附事業	語劇支援室支援、新入生向けガイドブック印刷費、外語祭事業支援、学生表彰顕彰助成、ボート大会支援、公認団体活動支援、学生相談室の充実、国立美術館キャンパスメンバーズ事業、学習相談サポートシステム、資料購入、キャリアアドバイザー人件費、アドバイザー企画セミナー、資料購入、ELCの充実、多言語ラウンジの充実、課外活動施設の整備、コロナ対策実施経費、学生会館備品更新、課外活動支援、学生相談サポートシステム	85,520,548
コロナ禍対応、学生への食料等支援事業	フードパントリー提供食品購入	347,000
東京外語会寄附事業	100円朝食事業支援、100円弁当事業支援、フードパントリー提供食品等購入	19,999,980
修学支援事業基金事業	大学食堂利用券支援、給付奨学金	12,758,000
ベトナム関係教育支援基金事業	語学研修参加支援、ベトナム教育支援基金総会運営、交流会交通費支援 (学生・OB) 等	479,350
人工芝事業	人工芝敷設に伴う調査及び施行、移動式観覧席設置	118,157,795
植栽基金事業	ヤマザクラ及び梅の植栽	369,000
建学150周年記念基金に関する業務委託	募金活動に関するサポートの業務委託	2,400,000
その他 建学150周年記念式典事業	式典参加者用配物購入費、式典パンフレットの作成	1,935,450
建学150周年基金運営事業	「2023年 基金活動報告書」作成、基金HPリニューアル	2,027,718
合計		261,386,208

※お名前の公表をご了解いただいた方のみ掲載しております（敬称略）。

ご寄附いただいた方からの声

Message



東京外語会理事長
寺田 朗子 様
1975年
本学 フランス語学科 卒業

府中のキャンパスを訪れるたび、人工芝の常に緑のグラウンドで走り回る学生の姿に、溢れるほどの元気を充電させてもらえます。暑さにも負けず、秋の外語祭の準備に楽しく忙しく動き回り、勉強や留学にチャレンジして燃える笑顔はまぶしく輝いています。

「東京外語会」はその名のとおり、東京外国語大学で学んだ大先輩や、現在社会でバリバリ活躍中の卒業生、あるいは今この時も一生懸命学んでいる学生たち——そうです、みなさんからなる、世代を超えた大きな集まりです。

ですから私たち「東京外語会」にとって、大学とのつながりはとても大切なものです。これからの世の中をリードしてゆく、あるいは外語会を背負っていく「大切な宝」である学生たちとの関わりに、何より大きな夢を託したいと願っています。学生のみなさんが、より豊かで充実した学生生活を送れるよう、私たちは応援したいのです。

その一つが朝食——その日その日をパワフルに始めるための元気の源、「生活立て直し支援の100円朝食」です。これは具体的な目に見える応援の一つです。でも、数字に表れるサポートだけがすべてではありません。

みなさんがこれから進む道についても、何か情報やヒントが欲しい時、どうぞ外語会のドアを叩いてみてください。みなさんの「生の声」を聞かせてください。私たちの歩いてきた足跡を振り返りながら、一緒に考えたり、いろいろな国の生きた情報をシェアできる場としても、きっと役に立つことでしょう。

会社、法人、団体

大阪外国語大学サッカー部OB会
株式会社オアシス 代表取締役 加城 敬三
株式会社カワベ
株式会社ギャクサン
株式会社商船三井
株式会社デジタルジュエリー
株式会社テレ・ポーズ
株式会社フラットフィールドマネジメント

スペイン語科卒業生有志
太洋産業貿易株式会社
東京外国語大学学生後援会
東京外国語大学女子サッカー部OG会
ベトナム語科料理店
有限会社とりむ 代表取締役 鈴木康之
四ツ谷キャピタル合同会社

個人

浅川 エリ子	大原 宏	桑野 孝也	大工原 紀久雄	野原 悠佑	向井 智洋
アドラー エドモンドロマン	大堀 修	桑村 益夫	高野 恭子	橋本 卓美	村尾 誠一
天野 裕介	岡田 春菜	小池 美恵子	高橋 朋之	橋本 文男	村上 昂音
荒木 和男	小川 健太郎	小出 雅俊	瀧田 真奈美	長谷川 瑞穂	村上 智之
淡路 佳昌	小川 美子	小嶋 夏菜子	田口 嶺	服部 貴志江	村山 則子
安 益模	小河原 康男	小島 由紀夫	武 良順	服部 亮市	室岡 有紀子
安藤 修一	奥澤 清子	小林 恵介	竹内 鉄雄	濱部 のり子	明治 洋征
安藤 隆介	小倉 祐子	小林 雅彦	武田 敦之	早川 友紀	茂木 光春
安樂 雄一	小澤 周三	小林 正幸	武野 康行	林 康弘	森 慎二
飯田 茂	落合 克哉	小林 実央	田先 仁美	原 信也	森井 眞策
生山 裕美子	小野 貴嗣	小針 進	伊達 新之輔	治田 秀民	守田 いつみ
池上 岳彦	尾上 敏起	三枝 茂夫	田中 巖	一杉 しげみ	森田 英司
池田 和夫	小野寺 拓也	齊藤 綾	田中 恵美子	一柳 二郎	森元 英昭
石上 祐也	柿崎 仁美	齋藤 憲	田中 正之	廣田 裕司	守屋 仁一
石口 創基	風見 健史	齊藤 貞秋	田中 洋一	廣田 幸男	森山 猛
石田 敏之	片山 明紀	齋藤 弘子	田辺 規子	福鳶(米山) なぎさ	八木 迪夫
磯山 秋人	勝亦 杏子	齊藤 博之	谷 研郎	福田 慎太郎	安川 修三
板久 恭子	桂川 正克	坂井 和	谷 悠己	藤井 宏	築瀬 千詠
伊藤 英二	門 更月	酒井 邦弥	谷口 茂	藤川 岫二	山内 眞也
伊藤 高城	加藤 滉己	坂井 公祐	谷口 浩之	藤本 幸温	山内 麻夕子
伊藤 力	加藤 千晶	酒井 満	谷口 龍子	藤原 剛史	山内 康宏
犬塚 文晴	加藤 尚子	坂村 哲雄	田村 成一	船橋 一雄	山形 淳子
井上 里子	加藤 青延	作村 直人	為我井 康栄	古澤 晴彦	山方 知之
井上 春雄	加藤 真希子	佐藤 健二郎	千葉 一清	古谷 明美	山口 勉
井ノ内 紀子	金丸 健二	佐藤 さとみ	千葉 亘	堀田 裕人	山口 登之
稻生 秀俊	加納 永清	佐藤 拓	堤 康徳	堀田 洋子	山崎 榮司
井口 靖子	加納 春果	佐藤 伸行	手塚 千鶴子	堀本 克己	山崎 孝
今坂 良明	上岡 悦子	佐藤 弘幸	土居 守	本田 知子	山崎 博子
今村 弥雪	上名主 聡	佐野 庄平	土佐 桂子	本間 芳光	山下 桜子
岩佐 政憲	神谷 真幸	皿井 恒星	登坂 靖彦	松浦 一博	山田 裕子 <small>ひろ</small>
岩本 英久	神谷 之穂	塩谷 来実	刀祢館 ひろみ	松岡 弘	山田 裕子 <small>ひろ</small>
上田 望加	鴨頭 謙治	七里 誠二	富澤 直美	松木 知也	山根 文枝
白田 誠躬	川上 直久	品田 亮	内藤 徹雄	松下 宗柏	山本 賢司
宇高 正章	川口 健一	柴田 敦子	長尾 有美子	松田 慶子	山本 勝
宇田川 重	川島 真、直子	柴田 さよ	中澤 直子	松田 二郎	横川 三賀子
内海 香織	川副 泰治	島田 志津夫	中束 和憲	松田 正美	横山 賢司
有働 恵子	川内 寿夫	白根 裕美子	長塚 進吉	松田 安隆	横山 秀
榎田 満蔵	菊池 雅子	杉園 弘行	中西 武司	松谷 俊康	吉岡 乾
卜部 弥生	北川 晃久	杉原 公基	中見 立夫	松原 加純	吉積 美穂
江上 博隆	北村 遥	杉山 廣志	長村 由紀夫	松原 好次	吉野 晃司
江田 仁、真知子	木村 英敏	須崎 明日実	中山 俊一	松原 斉	和賀 千恵子
王 宇辰	久木田 奈津子	須崎 彰子	南 潤珍	松村 博康	若野 正秀
大川 拓輝	草場 孝志	鈴木 一守	成瀬 智	松山 孝一	若林 利昭
大久保 勲	久保塚 直樹	鈴木 希美子	新保 由紀子	丸田 圭祐	鷺頭 三郎
大澤 はるみ	久保寺 晴子	鈴木 幹根	新美 陽子	三井 修	渡邊 早映
大澤 光美	熊谷 美穂	鈴木 瑞紀	西尾 淳一	南 富美子	渡辺 晋太郎
大島 勇次郎	久山 裕也	鈴木 雄一	西澤 貞明	峰岸 真琴	渡邊 みどり
大隅 国雄	倉田 るり子	須藤 景大	西田 良子	宮内 祥之	渡邊 結衣
大平 晃	黒川 知文	砂村 行信	西脇 英隆	宮崎 薫	渡邊 玲子
大谷 達之	黒澤 優子	住谷 美香	根岸 雅史	宮崎 恒二	
大橋 一三	黒住 厚	須和 菜緒	根本 直之	宮地 郷穂	
大橋 佑一郎	黒田 耕太郎	関 康年	野口 和彦	宮原 敦子	

2024年度 支援事業計画

2024年度に予定されている支援事業計画について、次のとおり報告いたします。

区分	主な使途	金額	
① 一般基金	教育支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生への奨学金支給 ■ 国際シンポジウムへの大学院生派遣旅費 ■ キャリア教育支援 ■ 専攻語動画作成 	39,161,680
	研究支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国際研究学会の開催 	
	社会貢献・ 学生課外活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 課外活動支援 ■ 外語祭、語劇支援 	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東京外国語大学基金各種運営費 	
② 研究等支援事業基金	<ul style="list-style-type: none"> ■ 博士後期課程学生への国際学会参加支援 ■ 博士課程学生への旅費支援 	1,448,000	
③ 特定基金	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人工芝の管理・維持費 ■ ベトナム人留学生への奨学金、ベトナム関連の学生ボランティア活動の支援 ■ ペルシア語関連文書の整理、ペルシア語イベント開催費 	2,362,549	
合計		42,972,229	

※上記は年度当初の計画であり、変更される可能性がございます。また、各基金の趣旨・目的を踏まえて、追加で支援事業を行う場合があります。

想いを、次の世代へ —— 遺贈について

将来のご自身の遺産を、本学のために役立ててほしいというお申し出をいただくことが増えています。遺贈を希望される方には、大学が提携銀行をご紹介します。相続財産目録の作成から遺産分割手続きの実施まで、煩雑な手続きを銀行が代行いたします。みなさまの想いは大切にお預かりし、次の世代へ、未来のキャンパスへと、確実につなぎます。

遺産によるご寄附（種類）

遺言によるご寄附（遺贈）

遺贈を希望される方に対して、提携銀行のご紹介をいたします。相続財産目録の作成から遺産分割手続きの実施まで、煩雑な相続手続きを銀行が代行します。

※大学に寄附（遺贈）いただいた財産は相続税の課税対象にはなりません。

相続財産によるご寄附（遺産）

故人の遺志、ご遺族の意思により、相続された財産の一部を東京外国語大学へ寄附することができます。

※相続税申告期間内にご寄附いただければ、大学に寄附いただいた財産について相続税はかかりません。本学が発行する領収証書を申告の際に税務署に提出されることで相続税は免除されます。

香典からのご寄附

故人の遺志、ご遺族の意思により、お香典を東京外国語大学基金へ寄附することができます。ご要望により、本学において、会葬者の方々へのお礼状を作成し、ご遺族の代表の方に送付させていただきます。お香典返しとしてご利用ください。

大学に遺贈いただいた遺産は相続税の課税対象になりません。

遺言によるご寄附をお考えの方は、事前に本学までお問い合わせください。



<https://tufts-fund.jp/how-to-donate/>

東京外国語大学基金HP > ご寄附の方法 > 遺産によるご寄附

東京外国語大学基金

あなたの支援が、TUFSSを未来につなぐ

— 世界と日本、東京外国語大学の未来のために —

2024年より
常設の
東京外国語大学基金として、
新たなスタートを
切りました。

東京外国語大学基金では、大きく4つの支援をお願いしております。

4つの支援

本学が諸活動を行う上で、みなさまからのご寄附は欠かせないものとなっております。本学の未来のために、ご支援賜りますようお願いいたします。

TUFS
Foundation

1

一般基金 | 大学の活動を支援する (使途を指定しない)

所得控除

寄附者からの使途を特定されていない寄附金として受け入れ、本学の諸活動を支援するため、教育支援、研究支援、社会貢献・学生課外活動支援の3点の支援に重点を置き、寄附者の方々のご厚意を反映させていただきます。

支援事業

- 国際教育支援
- TUFSS多文化共生学生自主企画事業助成
- 若手研究者等の海外研究活動
- 優れた外国人研究者の招聘
- 研究成果の出版活動等助成
- 世界諸地域に関する情報発信
- 国際的なボランティア活動支援
- 課外活動支援

TUFS
Foundation

2

修学支援事業基金 | 学生の修学を支援する

税額控除

または

所得控除

経済的理由により修学が困難な学生（日本人学生及び外国人留学生）を支援します。

支援事業

- 海外留学の支援
- 留学生の受け入れ支援
- 給付型奨学金

TUFS
Foundation

3

研究等支援事業基金 | 学生等の研究を支援する

税額控除

または

所得控除

学生（大学院生・学部生）やポストドク等の“若手研究者”へ研究を支援します。

支援事業

- 公募型プロジェクトにおいて、研究活動に要する費用を負担する事業
- 研究活動の成果を発表するために必要なものを負担する事業
- 異分野の研究者との交流その他の他の研究者又は実務経験を有する者との交流を促進する事業

TUFS
Foundation

4

特定基金 | 次に掲げる本学の特定のプロジェクトを支援します。

所得控除

1. 人工芝基金

屋外運動場及びテニスコートにおける人工芝の敷設、更新、維持・管理等を支援します。

2. 植栽基金

キャンパスの樹木の維持・管理、植え替え等を支援します。

3. 附属図書館支援基金

附属図書館における図書の購入、施設・設備の整備等を支援します。

4. 現代アフリカ教育研究支援基金

アフリカからの留学生や、アフリカ地域の研究等を支援します。

5. ベトナム関連教育支援基金

ベトナムからの留学生や、ベトナム地域の研究等を支援します。

6. ペルシア語教育研究支援基金

ペルシア語文化圏からの留学生や、本学のペルシア語文化圏の地域研究等を支援します。

7. 端艇部支援基金

端艇部（ボート部）の活動を支援します。



ご寄附の手続きはこちらまで

東京外国語大学基金 <https://tufs-fund.jp/>



東京外国語大学

Tokyo University of Foreign Studies

お問い合わせ先

東京外国語大学 総務企画課 基金担当

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

TEL : 042-330-5126

FAX : 042-330-5599

Email : tufs-fund@tufs.ac.jp

<https://tufs-fund.jp>

